

第53回経営協議会議事録

1. 日 時 平成29年6月27日(火) 14時00分～15時50分
2. 場 所 ホテルクラウンパレス浜松 3階 松の間
3. 出席者 今野(議長)、伊藤、猿田、篠原、布村、正木、御室、門田、山本、金山、前田、
晝馬、松山の各委員
陪 席 宮嶋副学長(教育改革担当)、浦野副学長(情報・広報担当)、蓑島副学長(研究担当)、西山監事、村本監事

4. 議事録の確認

第52回経営協議会議事録(案)を原案どおり確認した。

5. 議 事

(1) 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

金山理事から、平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(2) 平成28年度決算(案)について

前田理事から、平成28年度決算(案)について、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

また、西山監事から、監査報告書に基づき監査の方法の概要及び監査の結果について、適正なものであると配付資料に基づき報告があった。

(3) 平成30年度概算要求(案)について

前田理事から、平成30年度概算要求(案)について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(4) 報告事項

①第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について

金山理事から、第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について、配付資料に基づき報告があった。

②平成28年度監事監査意見報告について

西山監事から、平成28年度監事監査における意見について報告があった。

(5) その他

①国際化について

議長から、本学のグローバル戦略について説明があり、意見交換を行った。

次回の経営協議会について(平成29年11月28日開催予定)

※学外委員からの主な意見（○：学外委員の意見等、◆本学側の意見・説明等）

議事（１）平成 28 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

○後期研修の研修医が増加したことは重要である。増加の理由は何か。

◆要因としては、まずは各講座が努力をしていることがあり、併せて大学全体でアピールもしているということもある。また、各講座等での取組が研修医等にかなり浸透しているのではないかとも思っている。各講座の教授をはじめとして、魅力的な取組を行っているというのが非常に効果的ではないかと考えている。また、本学の学生に関しては、早期から働きかけをかなり行っている。

○まずは、後期研修医が増加しているというのは非常にいいことである。現在静岡県の関係で奨学金の受給など、かなり精力的な取組を行っている。後期研修医の増加にはその影響はあるか。

◆影響はあると思う。

○後期研修の研修医が増加していることについて、特に学外出身者にどのような取組を行っているのか。

◆静岡県内などの様々な病院で研修を受けるなかで、粘り強く働きかけをしていることが効果的ではないかと考えている。

○看護系の留学生の入学状況についてはどうか。

◆現在いないので、これから増加させたい。逆に増加させるために効果的な方法があるか。

○浜松医科大学の大学院修士課程修了者で、出身大学に戻って活躍している者がいる。そういう実績を踏まえて、さらにこういう取組を進めていくのがいいのではないかと思う。

◆協定校との交流はさらに深めていきたい。

○後期研修医の増加について、現在地元の人材が東京・名古屋・大阪の大学に進学するため、静岡県全体としては、転出のほうが多い状況になっている。地域の発展は、人材にかかっているので、浜松医科大学の取組を参考に、産業界でも効果的な取組を行いたい。

◆産業界との連携という意味で医工連携は本学の強みの一つであり、設置を予定している共同大学院も重要であると思う。

議事（４）報告事項② 平成 28 年度監事監査意見報告について

○本件の報告、また 28 年度事業報告及び決算等の説明により、学長のリーダーシップのもと、外部的な視点を取り入れたガバナンス体制を確立している。これらの優れた取り組みを引き続き行っていくことで、第 3 期中期目標期間の評価も良くなるのではないかと期待される。

◆引き続き、適切な大学運営に尽力していきたい。

議事（５）その他① 国際化について

○2020 年、東京オリンピック・パラリンピックの関係で、静岡県で自転車競技が行われる。

特にパラリンピック関係で、医療的な素質を持ったボランティアというのは極めて重要な

役割を持っている。ここに協力いただくということで、国際化のきっかけとして、活用してもらえるといいのではないかと思う。

◆今回の東京オリンピック・パラリンピックが静岡県でも行われるということで、検討・準備していきたい。

○一部の大学院では、主に留学生を対象にすべて英語で授業を行うコースを始めている大学もある。一方で、浜松医科大学の大学院修士課程では英語で修士論文を作成した留学生もおり、既存の課程でも、教員の受け入れが可能であれば、英語の論文を作成するということで、大きな変革をしなくても留学生の受け入れができるのではないかと思う。

◆大学院修士課程も英語がキーワードである。これからは英語による論文の作成を進めていこうという方向性である。また、大学院修士課程の入試でも英語を課すこととした。バランスをとりながら進めていきたい。

○静岡県医師会では図書館を有しており、豊富な蔵書がある。このたび整理を検討しており、活用を検討いただきたい。

◆本学図書館の状況も踏まえて検討したい。